

学校だより



NO. 3

〒098-2501
北海道中川郡音威子府村字音威子府181番地1

電話 01656-5-3044 FAX 01656-5-3838

e-mail otokoh@seagreen.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.otoineppu-h.ed.jp/

「本校の取組を存分にPR！」

校長 菊地 裕幸

例年より積雪が少なく感じられる今年の冬ですが、今後まとまった積雪があり、音威子府らしい景色となるのか気象予報に注目しております。

令和7年度もスタートしてから早8か月が経過し、終盤を迎える時期となりました。これまでの教育活動に対し、皆様からの御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、これまでを振り返りますと、8月20日（水）から3日間、高文連道北支部美術展・研究大会（於 美深町文化会館 COM100）が開催され、全校生徒の約3分の2に当たる79名（美術部53名、工芸部26名 出品79点（平面：48、立体：29、映像：2））が参加し、平面の部が13点と立体の部が8点、映像の部が1点の全道入選というすばらしい結果を残すことができ、本校生徒の創作レベルの高さをあらためて感じたところです。これらの作品については、10月8日（水）から札幌市で開催された全道大会に出品されました。また、9月10日（水）から3日間、2年生はデザインスクールとして高大連携の協定を結んでいる東海大学国際文化学部での学習（"かぶりもの"の制作や名作椅子に関する講義）や旭川市にある家具メーカーのカンディハウスでの工場見学、旭川デザインセンターでの家具の数々を見学し、これまでの学びと合わせ、知識や技術をさらに深めることができました。東海大学での"かぶりもの"の制作では、2人1組となり、お互いに相手のためのデザインや色合い、大きさ、形状を考え、与えられた時間内に制作するという内容で、相手を理解した上での作品づくりに苦労をしながらも、生き生きと作業する姿が見られたことに、完成した作品の素晴らしさとともに、とてもうれし気持ちになりました。このように、本校生徒が着実に自らの可能性を広げ、主体的に学びを深めていることを頼もしく思うと同時に、これらの経験で得た知識や技術、そして何よりも仲間と協力して一つのものを創り上げる喜びが、今後の生徒の創作活動や人間形成において大きな糧となることでしょう。

JR 北海道と連携では、宗谷線の新たな観光列車である急行「秋たび そうや」号が10月4日（土）、5日（日）に運行され、沿線地域である音威子府村のおもてなしとして、JR 威

子府駅には生徒作品の展示の他、その列車のヘッドマークのデザインを手がけさせていただきました。生徒有志による活動で、13作品が集まり、そのうち2作品が採用されました。列車の顔でもあるヘッドマークは、乗車される方はもとより、全国の鉄道ファンの目を楽しませることとなりました。JR 北海道との連携はもちろんのこと、他の企業や地域との連携・協働もさらに進めてまいります。生徒たちが「作りたい、表現したい」という思いを大切にしながら、他者のため、社会の課題を解決するための作品づくりにも取り組んでいきます。自身の作品が社会に貢献し、誰かの役に立っていることを実感できるような活動を通して、生徒たちが社会とのつながりを強く感じられるよう、これからも支援してまいります。

今後とも、村立校としての本校を持続可能なものとしていくため、ものづくりを通じた人づくりを教職員一丸となり取り組んでまいりますので、保護者並びに地域の方々からのますますの御支援と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（列車の顔である）

秋たびそうや号 ヘッドマーク 結果発表

【1号車（旭川方）】
3年 佐石さん
1年 佐藤愛さん

【4号車（旭川方）】
3年 佐藤愛さん
1年 佐藤愛さん

他にも、多くの作品応募がありました！

3年生 横島さん 3年生 佐石さん 2年生 秋田さん 1年生 佐藤さん 1年生 金井さん 1年生 佐藤さん 1年生 飯口さん

1年生 正嶋さん 1年生 斎藤さん 1年生 川口さん 1年生 中村さん

これらの作品についても、室内で紹介されます！

これからも社会とのつながりが実感できる 作品制作に挑戦していきましょう！

魅力化推進チーム



「寮生活について」

舎監長 久保 亜紀子

まずは11月末に流行しましたインフルエンザへの対応につきまして、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。おかげさまで閉寮することなく年末を迎えることができました。

さて、チセネシリ寮では現在113名の寮生が在籍し、寮生会やボランティアを中心に協力しながら寮の自治活動に努めております。近年の傾向としまして、大学や専門学校への進学が増えたことで学習室にて受験対策などのためにデッサンを行う生徒が増えてまいりました。それに伴い、利用時間や描く場所の確保など、それまでの学習室のルールでは対応できない場面が見られるようになったため、新たなルールの作りなどを行いました。

共用スペースとしては調理室の利用も活発です。軽食作りや趣味、友人とのコミュニケーションの場として多くの寮生が利用しています。ここでも使用ルールを定め、皆が気持ちよく使えるように活動しています。各学年に割り当てられた冷蔵庫は定期的に生徒たちで点検を行い、衛生面にも自分たちで気をかけて使用しています。

このようにチセネシリ寮では多くの場面で寮生たちが主体となり、自分たちの生活環境を維持する姿が見られます。

もちろん、すべてを完璧にこなすことができているわけではありません。また、受験対策のように今までのルールで対応できなくなってく

る場面も出てきます。そのたびに「どうすれば皆が過ごしやすいのか」を考える。そうした寮生たちの悩みや気づき、そして行動と成長を重ねながら、チセネシリ寮はこれからも歩み続けていきます。

どうか今後とも、寮生たちの悩みや報告に寄り添い、その成長を支えていただけたら幸いです。



「自分と向き合うこと」

工芸科長 角 南 友 繁

おと高は、作品を制作する時間がとても多いところです。授業の課題や部活動、寮での自主制作など、1日の中で様々な作品を制作します。制作から得られるものは、出来上がった家具や絵画などの作品だけではありません。1つの制作を終えると、技術や考え方などが、それまでの自分と比べて成長します。それらを実感できることは、とても嬉しく次の制作へのモチベーションとなります。

しかし、すべてが思い通りにいくわけではありません。制作の中では、予定通りに進めなかったり、イメージ通りに描けなかったりなど、自分の技術が足りないことや苦手なことから向き合わなければならないことも多くあります。そうした時に、粘り強く自分と向き合い、見つけた課題に取り組んでいくことは、卒業後にも活きる大切な経験です。おと高は、そんな経験を積み重ねていくことができる場所です。自分の力だけでなく、周囲の助けも借りながら、大切に自分を育ててほしいと思っています。



全道入賞作品

